

・基本の運動・ダンス（平成19年度の取り組みより）

- 1 . 小学校（清水）

授業者：清水由 学習者：小学校2部1年40名（男子20名・女子20名）

1 . 本校における「基本の運動（表現リズム遊び）」の概要

小学校では、運動会の「表現」を次の意図で「表現リズム遊び」の主たる学習としている。

現代的なリズムで楽しく踊れるようにする

大枠で動き方の指導はするが、細かい部分はそれぞれの子どもが思い思いに踊る

専科教師，担任教師，家族から6年間常に肯定的な声かけをされるようにする

幸い，中学校へ上がるころになっても多くの子どもが踊りを好きと感じているようである。また，総合の時間でダンスをテーマに授業を取り組むと，非常に多くの子どもたちが集まり，自分たちで学びを展開する様相が見られる。

上記のような意図で授業を行う意義として，第一義的には踊り嫌いをつくらないということがあげられる。そして，リズムに乗って動ける体づくりも重視している。それには，音楽を使用しない授業における基礎感覚づくりが非常に重要であると考えている。

2 . 単元について

「リズムダンス」は運動会での発表へ向けて簡単な振り付けを覚えて踊る。まわりの仲間と合わせたり，個々がリズムに乗って楽しく踊ったりすることを中心に指導する。そのなかで，音楽のテンポを速めたり隣のクラスと見合ったりして，より楽しく踊る工夫も行っている。

「折り返しの運動」は，一定距離を往復して様々な運動感覚を養うことをねらいとする運動である。基礎感覚を高めておくことで，中学年・高学年で取り組む運動に対して「できそうな気がする」ようになる。自分の身体能力に対する認知がなされる高学年期ころになって，基礎感覚が十分に耕されていれば「できそうな気がする」ことが増えるのである。理想を言えば，基礎感覚を十分に耕しておいた上である技に取り組み，子どもが「できそうな気がしたからやったらできてしまった」というような感覚を持てるような学習指導を低学年期から意識しておく必要がある。ただ，単なる訓練になってしまっただけでは本末転倒なので，ゲーム化して楽しませながら動ける体づくりをめざして取り組ませたい。

また，折り返しの運動の導入では動きのイメージづくりとして動物を示し，子どもがその運動に入りやすくしている。クマ歩き，アザラシ歩き，クモ歩き，ウサギ跳びといった運動群は，そのイメージによって意図する基礎感覚をつくる動きに取り組みやすくさせている。

3 . 活動計画

(1) リズムダンス 20分×6回で音楽に合わせて踊る

(2) 折り返しの運動 動き方を学び，隣と競争したりリレーをしたりして楽しみながら取り組む。ジャンケンを取り入れたりこれまでにやったことのない動きを入れたりして楽しむ

4 . 公開授業概要

リズムダンス，折り返しの運動ともに非常に勢いよく良い雰囲気の中で展開することができた。教師が示した体の使い方を，子どもたちなりに懸命に表現していた。非常に多くの運動量にもかかわらずまだまだやりたいという気持ちを持って終了した。（清水由）

- 2 . 中学校 (七澤)

授業者：七澤朱音 学習者：1年1組男女41名

. 本校ダンス領域の捉え方と概要

本校は、中学一年生の年間を通して男女共修の授業を展開しており、ダンス単元は例年1月から3月にかけて実施している。単元の最後には学年合同発表会を行い、表現することや仲間と協力すること、作品を仲間と共に創って行く力や会を運営する力などを身につけている。ダンスをこの時期に組み込む意図としては、中学校の導入段階として、まずクラス単位での仲間意識を高め、性差の枠にこだわることなく一人ひとりの個性や男女の特性を生かした学習場面を設定するためである。また、男女が同じ空間で「表現」し、それを共有することを通して、自己表現能力の育成や他者理解力を育み、男女の協力による学習の大切さや、共に運動の楽しさや運動の喜びを追及する能力や態度も同時に身につけさせたいと願っているためである。

このように、本校では中学一年生の段階から自己表現することやグループ学習による協力や協調の姿勢を育成しているが、ダンスは人間が人間らしく生活する上でなくてはならない「表現」の一つであることを理解した上で実体験させ、単元を通してより身近なものとして浸透させていくように心がけている。

. 今回のダンス単元とその授業構成の視点

生徒達が、段階を踏みながら表現の世界に入れるように学習課題に連続性を持たせて配列し、一人から二人、三人から五人へと学習集団を変化させている。そのことにより、生徒達が表現の要素を自然に身体で覚えられるようになり、また仲間と協力する姿勢を徐々に身につけることができる。指導者としては、単元の前半で表現の世界になかなか入れない生徒を無理に引っ張ろうとせず、毎時間の作品作りにおける生徒達同士の学び合いをきっかけにいざなっていき、単元の中盤や後半で動きや表現を追及させる言葉かけへと変化させていくようにする。

. 活動目標

思い切りからだを動かそう < 動きの追求 >

- からだの極限まで動こう、たくさん練習しよう、筋肉痛・あざができるくらい -

自分から動きやイメージを見つけよう < 主体的な参加 >

- 表したいもののイメージを思いながら動こう、ものになりきって止まらずに動こう -

仲間の表現を認め合おう < 協力の姿勢 >

- 「いいね、やってみよう」の気持ちで肯定的な雰囲気を作ろう -

. 活動計画 (13時間計画)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 「オリエンテーション 表現の世界・事前調査」 | 8 「見立ての世界 ・ミニ発表会」 |
| 2 「しんぶんし」 | 9 「作品づくり 」 |
| 3 「走る-止まる(見る)」(公開授業) | 10 「作品づくり 」 |
| 4 「集まる-飛び散る」 | 11 「作品づくり ・リハーサル」 |
| 5 「テーマパークへ行こう」 | 12 「学年合同発表会」(HRH) |
| 6 「課題の連続」 | 13 「発表会の振り返り単元のまとめ・事後調査」 |
| 7 「見立ての世界 」 | |

(七澤朱音)

- 3 . 高校 (宮崎)

授業者：宮崎明世 学習者：2年5・6組 女子 39名

1 . 本単元の概要

本校では、「ダンス」単元を2年生の後期の初め(10月中旬)から12月初旬までの約20時間実施している。ダンスは生徒からみて、好き嫌いがはっきりしやすい領域であり、ダンスが苦手と考えている生徒も少なくない。そういった生徒たちが、楽しくダンスに取り組みながら、表現することの楽しさ、さまざまな仲間と協力して作品をつくることの楽しさ、楽しさを感じ、作品を完成させたときの達成感を味わってほしいと考えている。

本単元は大きく分けて2つの部分から構成している。ひとつは「民族舞踊」で、沖縄の「エイサー」を取り上げている。資料やビデオ教材を使って、沖縄の踊り全般について歴史や構成、現在の姿などを学習した後、手で持つ太鼓「パーランクー」を使った簡単な踊り、両手に竹でできた楽器「四つ竹」をつけての踊りを教え、グループごとにアレンジさせる。簡単な振り付けをアレンジして自分たちならではの作品を作ることを重視している。もうひとつは「創作ダンス」で、単元の最後にクラス作品を作り、学年全体で発表会を行っている。このクラス創作に向けて、「課題学習」を4~5時間程度行い、動きを引き出したり、イメージを広げたりするヒントとしている。クラス作品では、クラスの全体テーマに沿ってパートで役割を分担し、ひとつの作品に仕上げる。この過程で生徒たちはお互いの意見を尊重しながら作品をつくっていくことの難しさを体験する。毎年クラス作品の発表会を終えると、苦労してつくった分、達成感を感じているようである。本単元を通して学習してほしいことのひとつにこの「人間関係づくり」がある。

2 . 単元の目標

- 1) 思い切り身体を動かそう。(精一杯、体の極限まで動かそう)
- 2) 身体を使って表現しよう。(ダンスは表現運動である)
- 3) グループで協力しあって1つの作品を作ろう。(他者との協力、作品完成の達成感)
- 4) 他の作品を鑑賞する能力を養おう。(互いの尊重、生涯を通しての関わり方)
- 5) ダンスを通して、柔軟性・リズム感などの身体能力を高めよう。
- 6) 身体を動かす心地よさを味わおう。

3 . 活動計画

- 1) オリエンテーション(学習の目標、内容の提示) 体ほぐし各種
- 2) 民族舞踊「エイサー」 ~ :「ヒヤミカチ節」「チャーびらさい」ミニ発表会
- 3) 課題学習 創作の基礎 ~ :「走-止」「捻-回」「伸-縮」「集団の性質」
- 4) クラス作品 ~ :テーマを見つける、メインの動き、パートの構成、中間発表会、全体練習「パートのつながりを工夫する」「通し練習」「最終リハーサル」

クラス作品発表会 クラス作品鑑賞会・反省・意見交換

4 . 公開授業の概要

公開授業では単元のはじめの「民族舞踊-エイサー」を行った。四つ竹を使い、「チャーびらさい」の簡単な振り付けを10人程度のグループ毎にアレンジし、それぞれ違った表現で作品を仕上げ発表した。民族舞踊だけでも単元を構成することができ、5時間程度では物足りないという意見もあったが、後半の創作につなげるような授業内容にすることができた。

(宮崎明世)